

刊夕 日四廿月十



定価 部一 一ヶ月金拾陸圓五錢
 廣告料五號十二字第一行金五拾錢
 日曜祭日の日休刊
 発行所 常磐毎日新聞社
 印刷所 常磐毎日新聞社
 電話 六三〇

萬葉集に現はれた母性愛

中泉 哲俊

偉大なる國民的抒情詩集とも稱すべき萬葉集を繙く毎に、私達の心を強く惹きつけ、私達の魂を深く揺り動かすのは、所謂純眞愛の種々なる相が、率直に色濃く表現されてゐて、彼等作者の息吹が生々と感じられる点にある。まこと萬葉集には、君臣愛、親子愛、夫婦愛、兄弟姉妹愛、異性愛、人類愛など種々の愛情が様々の歌人によつて詠せられてゐる。こゝに述べようとする母性愛もその一つである。

母性愛の至情を歌つたもの、代表歌と見なされてゐるのは作者不明の左の長歌である。

秋萩を妻問ふ鹿こそ一人子を持ちたりといへ鹿兒じもの吾が一人子の草枕旅に行けば 竹珠を 密に貫き垂れ 齋瓮に木綿取りして 齋ひつゝ 吾が思ふ吾子 眞幸く ありこそ

反歌

旅人の宿りせむ野に霜降らば 吾が子羽ぐくめ天の鶴群(卷九)
 長歌の意味は「大抵の獸

が、同時に多くの子を産む中に、萩の盛りには啼く鹿ばかりは一腹にたつた一つ子だけ生んで、そして腸目も振らず懸命に可愛がるといふことだが、あゝその鹿の子同様な一粒種の我が一人子が、今度海越えて、遠い、唐土へ旅するのだ。その悲しさに母親は、竹の切玉緒に貫き垂らし、清め

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

【朝】清汁―松茸あられ豆 小付 らつきよう
 【晝】ボクチャツツ
 【晩】煮込おでん 大根 里芋 竹輪 茶めし

た瓶には美酒を満て、木綿の清布下げしだらしてさて神々に祈り禱るその事は、いつくしの我が子悪なかれとばかり、我子の行く手に幸あれとのみ(五十嵐力先生)といふのである。

これは天平五年(一三九三年)に遣唐使の船が難波を出帆する時、隨行者の一人の母が、その子に與へたといふ歌である。遠く異朝に使用する我が子の身の上を思ふ母親の純情が、長歌特有の美しい修辭と洗練され

た表現によつて、飾らず包まず如實に言ひ現はされ汲めども盡きぬ慈味を湛へてゐて愛兒の首途を祝福するに如何にもふさはしい内容をもつてゐる、といふことが出来よう。我が子の平安を神に祈願し、我が子の庇護を空飛ぶ鶴群にまで希求する淳朴至純な母心は微笑ましくもゆかしい限りではないか。そして我が子を遠い不安な旅路に送り出す母親の心は、ひたすらその平穩無事を祈るために神に縋らうとする心情に於て一面宗教的信仰と結びつき祭壇を設けて神を齋き祭る習俗に於て、他面宗教的行事を伴ふひ來るのが當時の常であつた。この長歌は、かうした當時の民間信仰を窺ひ知る上からみても、興味深い、示唆に富んだ歌であると言へよう。



(俳句)

茸狩や先づ毬栗におどかさる
 飯田 残雪
 茸狩に行く女づれ山道に穂芒にはるかなる河光りたる

看護婦急派
 求めに應じます
 平町南町
 平看護婦會
 電話三七〇

木村外科醫院
 平町六丁目橋際
 電話三〇九番

ウオームコート
 純毛
 うらゝコート
 独特の編方
 染色の堅牢
 伸縮の自由
 柔かい地風
 保温満點
 スマートな容姿
 軽快なる着心地
 以上の特長を有する優美な新製品
 ¥8.00 ¥7.00 霜降 ¥7.50
 ツルヤ 電一四〇

是非!
 御融通には御用命下さい
 萬事便利な御相談に應じます
 三井質店
 平四・電六〇六番

玉屋洋品店
 平町四町通電話六五六番

造花
 神佛葬具
 花環 盛花 久壽玉 御弔燈 寶明燈
 靈柩自動車
 平新川町本橋屋
 電話一六一三

おまほば
 製造
 平町一丁目
 お物薬用 さつま揚 吉原揚
 不味實
 電話一四一番

凶作に備えた 食糧も全滅

山間部落民の 豫想外な窮状

匡救工事の繼續を哀願

既報平土木監督所は貝泊、荷路夫等山間部落の凶作對策工事として三千圓宛の道路改修工事八ヶ所を本年七月より着手し此程大體竣工に近いので小林監督所長は昨廿三日竣工検査に出張し兼ねて同地方の冷害状況を調査したがその談を聞くに貝泊、荷路夫、入遠野等が最も被害甚しくいづれも早生稲作の二分作を除いては

新港を彩る

大漁満鑑飾

中作漁港の壯觀

工費卅五萬圓を以つて一昨年から改修工事中だった江名町大字中之作港はこの程漸く竣功したので來月中旬全町上水道敷設工事竣工をまつて盛大に落成式を舉行することに同港は

仲の作埋立地を

宅地に分譲する

既報江名町仲ノ作地内三百坪の公有水面埋立工は工費八千圓を以て今回竣工したので町當局は近く竣工

主要部分の岸壁

本年度内に完成

小名濱築港の工事

完壁の築港事業を意圖する小名濱築港工事は過般の暴風雨に際して浚渫船敷賀丸大北丸兩船のロープ切断に依る沈没で豫定より作業が幾分遅延を見たが三千噸級汽船横付岸壁並に防砂堤の埋立工事等港外修築は何等の損傷なく鐵壁の工事を繼續中で目下築港の中央部に突出する幅員百二米、延長二百十八米の岸壁築造を急いでるが本年度内に全工事の三分の一が完成する

鯨川改修

玉川附近着工

鯨川江筋組合が工費二万五千圓で施工する小名濱一玉川間千五百米の舊水路改修工事は愈々來月一日より着工し來春三月迄に完成する事になつたが同工事は匡救工事として行はれるので附近農民から期待されて居る

初摺と稻コキ料の

郡下協定賃銀決定

昨日の示談會相當波瀾

吉成技手が説得

平町穀物検査所は既報の如く十一月一日から實施される初摺業者取締規則を管内の業者者に周知させるため昨廿三日午前十時より平町團係事務所に於て管内初摺業者示談會を開催したが

査を受けた上一般宅地用として希望者に分譲する筈

副業共進

郡内入賞四名

石城蠶業組合から伊達郡梁川町の副業共進會に出品し入賞したのは左記四名である

- △一等) 上遠野村上遠野金藤 蛭田熊太郎 入遠野 園城正直(二等) 澤渡鈴木 信次
- △二等) 上遠野村上遠野金藤 蛭田熊太郎 入遠野 園城正直(二等) 澤渡鈴木 信次

磐女講堂地鎮

高等女學校では今廿四日午前十一時より山部神官修祓の下に講堂敷地の地鎮祭を行つたが近藤管膳課技師及び來賓多數參列した

臨時考査執行

各中等學校の第二學期臨時考査は廿五日より五日間、平商廿八日より五日間、互つて夫々行はれる

泉崎水稻坪刈

草野村農會後援の同村泉崎青年支團主催の水稻坪刈品評會は廿五日午前九時より開かされるが石城郡農會より

は柴田技手が審査のため派遣されると

平職業紹介所報告

- △採炭歩合 四十才迄 尋卒
- △人絹女工 尋卒 日給卅錢
- △人絹男工 高卒 日給五十錢
- △牛乳配達 廿六才 高卒
- △中等教員 廿八才 女大卒
- △配達 廿五才 高卒
- △事務員 廿三才 中卒
- △外交員 卅一才 高卒
- △同 卅九才 高卒
- △同 廿六才 高卒
- △同 廿四才 甲種商卒
- △小使 廿三才 高卒
- △給仕 十八才 高卒
- △自動車助手 十七才 高卒
- △同 廿才 尋卒
- △硝子商店員 廿二才 高卒
- △店員 十九才 甲種商卒
- △雜役 廿六才 尋四修
- △仕上工 廿三才 高卒
- △ベルト職工 十七才 高卒
- △鑄物工 廿五才 高卒

平電氣鑄鋼所

電話二六番

素晴しい乗心地の!!!
三十五年式流線型新車が
参りました



三井タクシー
電話六八五番

是非御試乗御利用の程を御願申します

秋の行事の一

山と積まれた

磐女生の丹精

例年大繁昌のバザー

今年も賣場を増して

今では磐城高女の年中行事として一般から待望されて居るバザーは既報の如く来る廿七、八兩日に迫つたので目下全校あげてその準備に大奮となつてゐるが我れ勝ちの選り取り見取りに例年大混雑を來し係員は轉手古舞を演ずるので今年も二室を増して十四室を賣場に充てる筈で日頃指導された全校生徒丹精の手藝品は既に絢爛目を奪ふばかりに山と積まれて當日を待つてゐる尙食堂部は腕前自慢の献立に櫻ヶ丘名物と銘打ち壽司、團子、栗羊かんの美味づくめに加ふるに小笠原流のサーブス振りは好評噴々たるものであらうと、因に當日の即賣品左の如し

△裁縫手藝部 鏡臺エプロン 柱掛け サロンエプロン セーラー型袖無女子用ドレス ネクタイ 掛 腰紐 半セーター 花瓶敷 スリッパ

△オシメカパー モール細工 壁掛 靴下カパー リボン細工 靴下 花靴 キューピー人形 ブロー

スベーター帽子 手提げ ベビー服 ネクタイ 手袋 刺煮着 ケープ 造花 ケープ ハフコート チョッキ しぼり 羽織 下 靴下カパー テープ

ル掛け お手玉

△薬品部 ボマード 化粧水 クリーム

△食堂部 壽し 團子 汁粉 ドーナツ 栗羊カン

職業紹介デーに

児童求人を開拓

目下平職業紹介所が準備に大奮

平職業紹介所は來月十日より一週間職業紹介デーが施行されるので目下その準備中である尙同業業聯絡指導會を九日頃職業指導校の湯本で開催し児童求人の開拓に努める方針であると

平職業紹介所は來月十日より一週間職業紹介デーが施行されるので目下その準備中である尙同業業聯絡指導會を九日頃職業指導校の湯本で開催し児童求人の開拓に努める方針であると

郡下児童

唱歌會

卅一日に

石城郡教育會主催郡下小學校児童唱歌會は來月卅一日平第三小學校講堂で開催されるが参加校は郡内四十五校、出演児童千五百名に より合唱、輪唱、齊唱、獨唱、

紅葉見の

強行軍

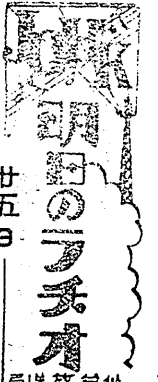
第二磐炭が

磐崎村の第二磐炭炭礦長倉坑は來月三日が開坑記念日に當るので従業員三三百名を率ゐる強行軍を行ひ最後の江田附近紅葉の下で慰安會を開くと

日雇人の

副業が窃盜

西白川郡金山村生れ住所不



今夜も明日も北東の風晴曇半す

今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間 獨唱 船橋富美子
- 後六、二五 御陵めぐり 「大和の御陵」萩野伸三郎
- 後七、三〇 趣味講座「音の世界に生きる」宮城道雄
- 後八、〇〇 謠曲「木賊」觀世喜之
- 後八、三〇 歌謡曲 渡邊はま子 兒玉好雄
- 後八、五〇 浪花節「銅像を洗ふ女」杉野兵曹長の妻「天中軒雲月」
- 後九、三〇 時報 ニュース 氣象通報 番組預告
- 明日の部
- 後六、三〇 現代語講座 「國語國字の整理」保科孝一
- 後七、〇〇 朝の修養「報徳講話」佐々井信太郎
- 後九、〇〇 婦人思想講

大男現る

身長七尺二寸、体重三十八貫の超大男白頭山君が森永キヤラメル宣傳員として明廿五日午後六時から約一時間程平町町松月堂と、五丁目泉屋前でデビューする筈で當日はキヤラメル買上の人々に賞物大手形の寫眞を呈呈すると

他人の犬を

賣飛して横領

内郷村大字御厩草野一郎(一)は八月同村大字綴字町田海老澤卯三郎の所有蓄犬を綴驛踏切番鈴木某に五

我身に愛想を

盡かした行者

醒めるまで起すなど

好間村大字北好間生れ御嶽行者川又清(一)は去る廿二日水戸市本町小林春治藤方に宿泊中神經衰弱が全治せぬのを悲憾して枕元には體の具合が悪くから醒めるまで起さないで下さいと遺書を殘しカルモチンを多量に嚔下して昏睡状態に陥つたのを家人が発見騒ぎとなり應急手當の結果一命は取り止る模様である

四倉町民体育

四倉町第六回町民體育大會は來月三日の明治節に催されるが準備打合せの各團體代表者協議會を昨廿三日午後七時より同町小學校に開いた

青年修學旅行

私立平青年學校では來る廿七日より一泊二日の豫定で職員二名引卒の下に同校生徒五十名が東京横濱方面の修學旅行を行ふと

聯合教育提案

東部聯合教育會總會は來月十日双葉郡富岡町小學校で開催されるが石城郡教育會より篠山部會長以下多數出席

童話劇象の「大事」大阪児童劇協會

後六、二五 基礎英語講座 岡倉由三郎 講演「我國最近の蠶糸問題に就て」井野碩哉

◎稻を讀へる◎

後八、〇〇 俚語 稻刈唄 丹野せきの他

後八、一五 ラヂオ聯曲 「秋の横顔」梓屋佐吉社中

後八、四〇 ラヂオデッサン「美術の秋」伊藤廉他

後八、五五 和歌朗詠 柳田新太郎他

後九、一五 管絃組曲「安藝の一日」阿部幸次

後九、五五 日本棋院東西大手合戦續

教育總會打合

石城郡教育會は來る廿七日の總會準備のため廿四日午前九時より平第一校で役員會を開き打合せた

シネマ週報

△平 館 黒川彌太郎主演 オールトーキー「地雷火組」江川宇禮雄主演オートルトーキー「男のまごころ」大都特作「奇人豪傑三人組」

△世界館 嵐寛壽郎主演「鞍馬天狗大會」田仲綱代竹内良一主演「箱入り娘」山路ふみ子主演「自活する女」

平町人事

△新川町 當時四倉町字仲町葉谷留吉氏七男滿藏

△南町六四 松本万吉氏(二八)内郷村字大畑大谷光さん(二六)



明治太平記

(小説)

(作) 寺島雄史
(監) 寺島雄史

第二百五十八回

運命の星 (六)

先生
「おう」

「首を頂戴に参つた拙者だが、このまゝ歸ります。見のがしてくださいませ」

「なぜ、首を持つていかぬのか」
「ほしくはありませんが、意気地なしの首なぞ、唾もひつかけたくないといふのか」

「てうどその反對、勿體なくてあなたの首がいたゞきませぬ」

「では、先かしてをくのか」
「……」

「生きてゐてくださいませ」

「岩倉、大久保一行の歸るまでか」

「いや、いつまでも生きてゐて、人民の行く先をみると、おどろかされては」

「朝鮮征伐は？」
「時が解決するでせう。いや、あなたが本氣になつて立上るときで遅くはありませぬ。では先生……これで」

悄然と、やみくもに消え去らうとする大志賀を、西

郷は、よびとめた。

「待ちたまへ」

「もう、これで……」

「いや、聞きたい事がある。いま君は、もつ體なくて首を」

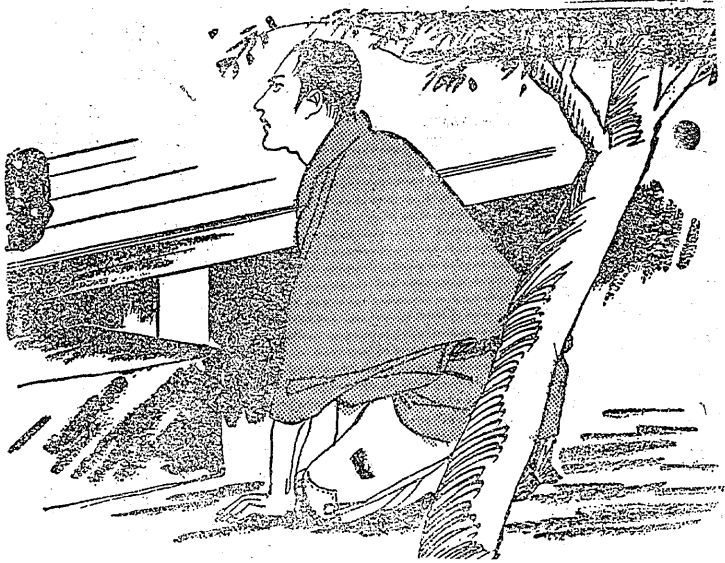
「をいただぬといふたが、その勿體ないといふ意味を」

「の惜い気分がした。しかも、西郷に面接しいろく話合つてみると、こんどはもつ體ないやうに感じられた。」「わしは鈍物ぢや。鈍物を勿つ體ないとおもふのは、大志賀君の意気が衰へかけたのではあるまいかな」

「……」

「彰義隊の一方の隊長として、大村やわしに双向ふた大志賀とは、信じられぬやう」

「時勢の力です」
「時勢に負けなかつたか」



さかして貰はう」

「……」

それは、大志賀自身わからなかつた。奥庭へ忍び込むまでは命をすて、も西郷の首を盗まうと覺悟はしてをつたが、縁にあぐらをかき星を仰いでをる西郷の重石のやうな存在を、まともに見ると、なぜか、殺

「抗しかねます」

「それで……」

「武蔵野の奥にかくれて、百姓でもやりませう」

「うむ……羨ましいのう」

「……」

大勢を觀望するといふ生活が好ましいのう」

「そ、それこそもつ體ないです」

「いや、わしは、さきほども云ふたとほり、人民大衆の争頭に立つて、仕事をするやうな男ではない。ことに政治は嫌ひぢや」

「……」

「わしは、物臭だ。鈍物ぢや。わしは政府大官に祭りあげた連中は、わしを見る明がなかつたのぢや。わしに高位高官を與へたことこそ、もつ體ないといふてよ。ハ、ハ、ハ、」

「……」

岩倉、大久保等への不平不満など大志賀はおもつた。留守の間はおとなしくしてゐようが一行が歸朝した曉には、この男一體どんなことをやるかわからぬぞ

「それで、大志賀君」

「はア」

「府下にかくれて百姓するといふが、しかし時機が來ると劍をすて、劍を執らうといふ肚なのだらう」

「いや」

産名城馨

美味鯉 しほから

当店特製

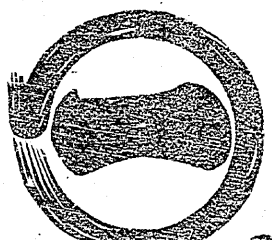
鯉節賣出し

「いや、その肚でゐて貰ひたいものぢや、いつでも天

子に奏公の出來るやうに用意をして待つてをて貰は

「んならん」

「わかりました」



魚問屋

店商榮盛賀志

(三一二電)目丁四平

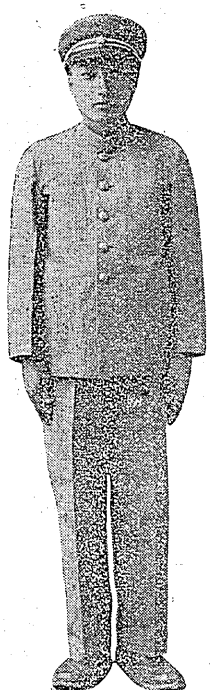
冬の通學服賣出し

中學生用

國防色

黒小倉服

別注文 國防色 特A黒小倉



三平 店服洋やかふ

開院

五十嵐産科醫院

平町新川町一二

醫學博士 五十嵐雄二

電話三七〇番

門 專
産科 婦人科
花柳病科

◎入院隨意

井坂醫院

平町田町

電話五五九番